

2023年度学校関係者評価委員会は、「2022年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2022年度学校評価アンケート」（全校保護者対象。以下「学校評価アンケート」）、「2022年度授業評価アンケート」（全校生徒対象。以下「授業評価アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。

今年度は2度の学校見分（9月25日 高1Sクラス「AA特講」・高1LS「言語探究」（進路学習の様子）、9月29日 体育祭）を行い、9月25日・11月22日には併せて討議を行いました。特に11月22日には「授業見分」を「討議」の時間に充て、以下の3点を柱としながらも、学校運営に対する様々な意見を交換しました。

本委員会は次の3点を柱として協議しました。

- (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

(1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

- ・松蔭には、礼拝・聖書の授業というキリスト教主義の根本がある。普段の挨拶や親切な行いは、キリスト教主義教育に基づくものではないか。学期に数回配布・配信される「チャペルニュース」も生徒の人間形成に役立っている。
- ・宗教週間「特別礼拝」での講師（プール学院チャプレン）のお話について。野口雨情「シャボン玉」の歌の「秘話」として、「他人の命」「自分の命」を大切にというメッセージがあった。
- ・にじ作業所（パン工房「なないろ」）の販売は、授産施設の方と自然にふれあう機会となっている。
- ・討論の中で「海外留学では聖公会の教会からのサポート」について質問があった。委員である神戸教区主教より「全面的にサポートする」旨の発言があり、保護者に安心感を与えることになった。

(2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

- ・学校生活アンケートによる調査・把握を定期的に、必要に応じて適宜行っている。学年目標「自他を大切に」など他人はもちろん、自らについても大切にすることの必要性を普段から説いている。
- ・「いじめ」と思われる際の対応について。「事実関係」の調査、当事者（加害者・被害者）、周辺からの聞き取り、アンケート集約など行ったうえでの対応をしている。「重大事件」は本校では発生していないが、「訴え」などはある。特に中学生に多い。背景の公表されていないもので一面的な取り上げられ方がなされている事象があるようだ。(1)とも関連するが、「命が大切」「相手を大切に」「自らも大切に」とキリスト教主義の観点からも説いている。このことは松蔭の強みである。
- ・11月の人権研修ではジャグラー、人権活動家である「ちゃんへん」のパフォーマンスと講演を鑑賞。在日韓国・朝鮮人の国籍取得にまつわる「思い」や幼少時の「苦勞」の話聞く機会となった。
- ・「奉仕活動の日」（2月17日）は、コロナ禍が明け、外部の方や受験生に見学いただく行事として公開してもよいだろう。
- ・「バザー」を「奉仕活動の日」にしたのは、松蔭では「ボランティア」と言えば、宗教部が中心になった活動しかなかった。そこで「クラス」「学年」「グループ」単位で「ボランティア」活動ができる機会を設けた。

「舞台」は自分たちで考えてくださいということだ。これらを考えることが「学び」に繋がっていく。

- ・コロナが5類に移行した。「学祭」に当たるような行事は「文化祭」になるが、松蔭では文化部の発表会という形式になっている。PTA役員で売店を運営したり、他校のようにキッチンカーを呼ぶなどしたりしてはどうか。
- ・生徒の人数に比して部活動の数が多すぎるようだ。生徒部による「規定」があるが、部の数の削減を検討してほしい。

(3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

- ・9月の授業見分「AA特講」では、外部コンディショニングトレーナーの講演を聞き、実技を実践していた。普段なら受けることのできない授業を生徒たちは受けており、有益なものになっている。進路を決めるときには、子ども達は悩むが、いろんなヒントを学校から与えられているのだと分かった。
- ・「言語探究」の授業（進路について考えるため、25の講座から3講座を選択）は、自発性を高める良い機会になっている。自分の好きなものの発見に繋がり、それを追及することになれば素晴らしい体験と言える。
- ・高1LSコースの夏休みの宿題に「2つのオープンキャンパス巡り」があった。これらの予備知識があれば、大学選び、職業選びに繋がると分かった。入り口としては良い機会である。
- ・全員の生徒が「iPad」などタブレットをもち、「授業」の運営も変わってきている。学校としては使用を推奨しているが、教員の習熟度で差がある現状がある。今後ノートPCへの乗り換え、BYODの運用等の検討も必要になる。
- ・プレゼンテーションのスキルについてはコースにより習熟度の差が激しい。ICT使用の目的は、「教科の知識を効果的に身に着ける」「生徒同士が協働の学びをする」、その上で「個人での探究・プレゼンをする」ことだが、中学GS・高校GLはそれができている。一方、中学DS・高校LSはそこまで到達できていない。中学生には規制を掛けつつ、高校生になれば自由化する方向で検討したい。
- ・生徒同士が学び合い、自主的に協働する形も出てきている。教員が生徒たちに発表させる場をつくるのが課題になってくる。
- ・「授業」以外の連絡や保護者伝達の方法もデジタル化は進行している。次年度から「ハンドブック」はデジタル版になる予定。
- ・校内での学力上位層は自ら学習するが、学力中下位層の自主的な学習意欲の育成が課題である。

以上、2023年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約 (抜粋)

第2条 (目的)

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

第3条 (活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

第5条 (組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員 6～8名
保護者代表 (PTA本部役員)、神戸松蔭女子学院大学代表、卒業生 (千と勢会) 代表、その他
学校関係者として校長が委嘱する者
- 2、校長、副校長、事務長 4名